



イエメン：新内閣組閣と政情の混乱

2014年11月9日、ハーディー大統領は7日に任命した新内閣の宣誓式を行った。新内閣の閣僚は以下の通り。

役職	氏名	特記事項
首相	ハーリド・マフフーズ・アブドッラー・バハーフ	2014年3月-2014年6月挙国一致内閣石油・鉱物相；2014年6月-2014年11月国連大使
電力相	アブドッラー・ムフシン・アクーウ	2014年6月-2014年11月挙国一致内閣副首相兼電力相；イスラーフ党
農業・灌漑相	ファリード・アフマド・マジジュール	2011年12月-2014年11月挙国一致内閣農業・灌漑相
観光相	ムアンマル・ムトヒル・ムハンマド・イリヤーニー	2011年12月-2014年11月挙国一致内閣青年・スポーツ相。国民全体会議党
商工業相	ムハンマド・サイド・サアディー	2011年12月-2014年11月挙国一致内閣計画・国際協力相。イスラーフ党
職業訓練相	アブドゥルラッザーク・ヤフヤー・アシュール	2011年12月-2014年11月挙国一致内閣教育相
法務相	ムハンマド・アフマド・マフラーフィー	2011年12月-2014年11月挙国一致内閣法務相
財務相	ムハンマド・マンスール・ザマーム	2014年6月-2014年11月挙国一致内閣財務相
国防相	マフムード・アフマド・サーリム・サビーヒー	少将；2013年4月-2014年11月第4管区司令官
内相	ジャラルール・ルワイシャーン	少将；2014年3月-2014年11月中央政治治安局長
高等教育・科学研究相	ムハンマド・ビン・ムハンマド・ヤフヤー・マトハル	人民勢力連合。
移民担当相	アラウィー・ムハンマド・アブドゥルカーディル・バーファキーヤ	
情報相	ナーディヤ・アブドゥルアジーズ・サファーク	女性。
地方行政相	アブドゥルラキーブ・ファトフ・ウスーディー	

石油・鉱物相	ムハンマド・アブドゥラー・ビン・ナブハーン	
計画・国際協力相	ムハンマド・アブドゥルワーヒド・マイタミー	
通信・IT相	ルトウフィー・ムハンマド・サーリム・バーシャリーフ	
教育相	アブドゥルラティーフ・フサイン・ハイダル・ハキーミー	
保健・住宅相	リヤード・ヤーシーン・アブドゥラー	
青年・スポーツ相	ラアファト・ムハンマド・アリー・アクハリー	
公共事業・道路相	ワヒー・ターハー・イマーン	
水・環境相	アッジー・フツバトツラー・アリー・シャリーム	
運輸相	バドル・ムハンマド・ムバーラク・バーサルマ	
司法相	ハーリド・ウマル・アブドゥラー・バージュナイド	
漁業相	ファハド・サーリム・カファーン	イスラーフ党
人権担当相	イッズッディーン・アスバヒー	
ワクフ相	フアード・ウマル・ビン・アリー・ビン・シャイフ・アブーバクル	
対話担当国務相	ガーリブ・アブドゥラー・ムスアド・ムトラク	
国務相	ハサン・ザイド	ハック党
国務相	サミーラ・ハミース・ウバイド	
外相	アブドゥラー・サーイディー	9日に宣誓式をせず。
文化相	アルワー・アブドゥフ・ウスマーン	9日に宣誓式をせず。
国務相	ムハンマド・ムサー・アーミリー	9日に宣誓式をせず。サラフィー主義導き党

今回宣誓式を行った閣僚は 30 名で、3 名がイエメン国内に不在などの理由で 9 日に宣誓式を行わなかった。なお、7 日の新内閣の閣僚指名の時点では 36 名が任命されたが、アフマド・

ムハンマド・カフラーニー（上下両院担当国務相。国民全体会議党）、アフマド・ムハンマド・ルクマーン（市民サービス・保険相。アラブ行動機構）の両名が閣僚就任を辞退、クブール・ムハンマド・アブドルマリク・ムタワッキル（社会・労働相。2日に暗殺されたムハンマド・アブドゥルマリク・ムタワッキルの娘）も就任を辞退し、宣誓式の時点で3閣僚を欠く状態となっている。さらに、国民全体会議党は7日に国連安保理がサーリフ前大統領とフーシー派幹部2名の計3名をイエメンの政情を混乱させているとの理由で制裁対象者名簿に掲載したことに反発し、ハーディー大統領を党の役職から解任した上、新内閣への参加を拒否すると発表した。フーシー派も、今般の組閣を拒否し、組閣のやり直しを要求している。

## 評価

今般の組閣は、8月のフーシー派による抗議行動強化以来の政情混乱を打開するためにイエメン政府とフーシー派が合意した和解案に則る組閣と位置づけられるが、フーシー派に拒絶されるなど前途は多難である。また、安保理がサーリフ前大統領らを制裁対象名簿に掲載したことを契機に、ハーディー大統領が国民全体会議党の役職を解任され、同党も内閣への参加を拒否するなど、ハーディー大統領や内閣の政治基盤が弱体化している。安保理やイエメンの政治的移行を後見する諸国は、サーリフ前大統領ら旧政権派がフーシー派と結託して移行を妨げているとの立場をとっているが、9日付『ハヤート』紙が消息筋の話として国民全体会議党によるハーディー政権に対する緩やかなクーデタの可能性を指摘しているように、国連や関係国の行動は政情の混乱に歯止めをかけるに至っていない。

一方、イエメン国内では組閣・宣誓式にも拘らずフーシー派對アラビア半島のアル=カーイダと同派の別働隊のアンサール・シャリーアとの戦闘が続いている。アンサール・シャリーアは駐イエメン・アメリカ大使に対する爆弾攻撃を企画したとも発表しており、治安も悪化している。さらに、今後の展開によっては南イエメンの分離独立運動が活発化し、閣僚の辞任や抗議行動の拡大を招く可能性もある。今般の組閣は、国家解体の危機とも評される現在の政治・治安上の危機を打開する決め手とはならないと思われる。

（高岡上席研究員）

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799